

配信先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会

2026 年 1 月 7 日

大阪公立大学

大学生から社会人への移行期の環境変化を追跡調査 ～卒業時の性格特性と職場適応の関係性を明らかに～

<ポイント>

- ◇日本の大学生 397 人を対象に、就職が内定した時期、就職半年後、就職 1 年後に亘り、性格や人生満足感※¹ などについてアンケートを実施し、就職後の働きやすさや仕事に対する気持ちにどのような関係があるのかを調査。
- ◇大学卒業時に外向性が高い人や人生に満足していると回答した人は、就職後に自分らしく働いていると感じやすく、大学卒業時に心配性で不安を感じやすいと回答した神経症傾向が高い人は、就職後に仕事を辞めたいと感じやすい傾向があると判明。

<概要>

大学卒業後の 1 年間は、就職などにより生活のリズムや環境が大きく変わると考えられます。どのような性格の人が自分らしく働くことができていると感じやすく、どのような人が仕事を辞めたいと感じやすいのか、卒業前から就職後までを通して調査した研究は、これまでほとんどありませんでした。

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科の畑野 快准教授らの研究グループは、大学卒業時の性格（ビッグファイブ※²）や人生への満足度が、就職後の働きやすさや仕事に対する気持ちにどのようにつながるのかを調べるため、日本の大学生 397 人を対象に、就職が内定した時期、就職半年後、就職 1 年後に亘り、性格や人生満足感などについてアンケート調査を行いました。その結果、卒業時のアンケートにおいて人と積極的に関わることのできる外向性が高い人や人生に満足していると回答した人は、就職後に自分らしく働いていると感じやすく、卒業時のアンケートにおいて心配性で不安を感じやすいと回答した神経症傾向が高い人は、就職後に仕事を辞めたいと感じやすい傾向がありました。本研究結果により、就職後の仕事に対する気持ちは、大学卒業時の性格や人生への満足度と関係していると考えられ、教育の中でどのような特性を伸ばすべきか、また、企業がどのような人を採用すべきかなどについて重要な示唆を与えます。

本研究成果は、2025 年 11 月 14 日に国際学術誌「Journal of Adolescence」にオンライン掲載されました。

<研究者からのコメント>

大学から仕事への移行は若者の意識に大きな変化をもたらします。その変化を円滑に乗り越えられる人とそうでない人の違いが、どのような心理特性に由来するのか疑問を抱いてきました。今回の結果はその問いに重要な示唆を与えるものです。今後も精緻なデータを蓄積し、移行期に悩む若者を支援する方策につなげていきたいと考えています。



畑野 快准教授

＜研究の背景＞

大学卒業後、仕事を始めてからの1年間は、生活も環境も大きく変わる時期です。ある人にとっては「自分らしく働ける」と感じる職場でも、別の人にとってはそう感じないこともあります。また、新しい仕事に期待していたことと現実が違い、ショックを受け、仕事を辞めたいと思う人も少なくありません。大学を卒業する時点でどのような性格や心の特徴を持っている人が、就職後に「自分らしく働けている」と感じやすく、どのような人が「もう辞めたい」と感じやすいのか。これまで、大学から就職への移行が心に大きな影響を与えることは知られていましたが、卒業前から就職後までを追いかけて調べた研究はほとんどありませんでした。

＜研究の内容＞

本研究では、大学卒業時の性格（ビッグファイブ）や人生への満足度が、仕事を始めてからの働きやすさや気持ちにどのようにつながるのかを調べるために、日本の大学生397人（平均22.19歳）を対象に、就職が内定した2022年1月にアンケートを行いました。内容は、性別、性格（神経質かどうか、明るく人と関われるか、好奇心が強いのか、人にやさしいか、まじめに取り組むか）と、人生満足感です。その後、就職から約半年後の2022年8月～9月と就職から約1年後の2023年3月にアンケートを行い、仕事に対する気持ちを調べました。そして、「仕事アイデンティティ^{※3}」のうち、コミットメント（今の仕事で自分らしく働いていると感じる気持ち）、再考・再検討（別の仕事を検討すべきか考える気持ち）などを測定しました。

研究の目的を達成するために、潜在変化スコアモデル^{※4}という分析手法を用いました。その結果、人と積極的に関われる性格である外向性が高い人や、自分の人生に満足している人は、「自分らしく働けている」と感じやすく、一方で、心配しやすい・不安を感じやすい神経症傾向が高い人は、入社後に「仕事を辞めたい」と感じやすい傾向がありました。つまり、働き始めてからの気持ちは、大学卒業時点の性格や人生への満足度の違いと関係している可能性があることが示されました。

＜期待される効果・今後の展開＞

これまで日本の教育では、まじめさや勤勉性が重視されることが多かったと考えられます。しかし本研究では、人との関係を作りやすい外向性が高い人は、職場でも自分らしく働いていることが示されました。たとえ新しい環境であっても、周囲の人と円滑に関われることが大切だと考えられます。本結果は、教育の中でどのような特性を伸ばすべきか、あるいは、企業がどのような人を採用すべきか、などの点で重要な示唆を与えます。ただし今回の調査にはさまざまな業種が含まれているため、向いている性格は職場や職種によって変わる可能性があります。今後は、業種ごとに同様の調査を行い、性格によって適した仕事についてより詳しく明らかにしていく必要があります。

＜資金情報＞

本研究は、公益財団法人電通育英会から研究助成を受けて実施されました。

＜用語解説＞

※1 人生満足感：自分の人生に対してどの程度満足しているかを問う指標。

- ※2 ビッグファイブ：人の性格を 5 つの側面から捉える代表的モデルのこと。
 神経症傾向：不安や緊張のしやすさ、環境への過敏性
 外向性：社交性や他者との関わりへの積極性
 開放性：新しい経験への関心や探求心
 協調性：対人関係を円滑に保とうとする傾向
 勤勉性：計画性、自己管理能力、目標達成に向けた粘り強さ
- ※3 仕事アイデンティティ：仕事における「自分らしさ」や「自分はこの仕事にふさわしい」という感覚を指す概念。空間的斉一性（さまざまな場面での一貫した自己像）や時間的連続性（これまでの自分と現在の自分のつながり）に基づく自己の一貫性を含む。
- ※4 潜在変化スコアモデル：時間の経過に伴う心理的变化を捉えるための統計的分析手法。事前の特性がどのように後の変化を予測するかを、測定誤差などを統制しながら精密に推定できる点が特徴。

<掲載誌情報>

【発表雑誌】 Journal of Adolescence

【論文名】 The Big Five, Life Satisfaction, and Job Identity Development: A Longitudinal Study on the School-to-Work Transition

【著者】 Kai Hatano, Shogo Hihara, Kazumi Sugimura, Jun Nakahara, Megumi Ikeda, Satoshi Tanaka, Oana Negru-Subtirica

【掲載 URL】 <https://doi.org/10.1002/jad.70079>

【研究内容に関する問い合わせ先】

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科
 准教授 畑野 快（はたの かい）

TEL：072-254-9614

E-mail：kai.hatano@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】

大阪公立大学 広報課
 担当：谷

TEL：06-6967-1834

E-mail：koho-list@ml.omu.ac.jp